

技術を身につけて働く

——寡婦の手記——

労働省では、就業を希望する婦人などに対する就業援助対策の一つとして、道府県の婦人就業援助施設において行われる技術講習、就業に関する相談・指導等に対して助成をいたしておりますが、この度、婦人就業援助施設において技術講習を受講し、技術を身につけ、就職しておられる寡婦等の方々に手記を書いていただきました。

就業を希望する寡婦等の方々が、これらの経験に励まされ、技術を身につけ、より安定した仕事に就かれることを希望します。

労働省婦人少年局

昭和57年2月

安定した職業に就くために

(36歳 病人介護)

私の夫は、昭和49年、当時4歳の娘と私を残して病死しました。涙の乾く間もなく、生きるすべを求めて知人の紹介により身よりのない子供たちの施設に勤めることになりました。

掃除、洗濯に明け暮れる生活が2年続きましたが、臨時から正規職員になれる機会は全くなく、小学校に入る娘のためにも何とか経済的に安定したいものと思い、職業を変えてみました。

若い人たちとは違い、30代も半ばになりますと、どんな仕事についてもパートという身分からはなかなか昇格できないことが身にしました。

何とか安定した職業に就きたく、しかも糧を得るだけでなく、社会的にも意義のある仕事がしたいというのが私の願いでした。そんな折に、県婦人等就業援助センター主催の「病人介護及び老人の世話講習会」があることを市の広報で知りました。

それが、私の求めていた仕事なのだと思ひにひらめくものがあり、早速受講申込みをいたしました。講習の内容は、理論と実技に分かれ、家庭看護一般、救急処置、老人の世話の仕方、成人病の予防など盛り沢山の内容で、皆真剣にノートを取り、耳を傾けておりました。

病院実習は寝たきり老人の介護施設であるY荘を訪ねて、実際に食事の手伝いやら、おむつ交換などを実習したのですが、知識として教えていただいたことは、頭の中では充分にわかっているつもりでも、実際にやってみると思うように手足が動かず、看護婦さんの手慣れた扱いをみてプロには程遠いことを身にしみて感じさせられました。

それでも、せっかく習得した知識技能を生かせる職場で働きたいと考えるようになり、就業援助センターのお力添えもあって、現在の職場に就職することが出来ました。

ここは老人専門病院ですが、入院患者の平均年齢は男71.4歳、女72.3歳となっております。そしてその病気は、脳卒中が多く、病歴も1年から4～5年ぐらいという人がほとんどです。しかも夫婦そろってというケースも決して珍しいことではないのです。

高齢で、夫婦のどちらかが倒れたとき、つれあいが介護するというのは非常に大変なことです。

夫が倒れ、その看病疲れで妻もまた入院というケースも多く、当病院では、多いときには8組もの夫婦そろっての入院がありました。

昔のように、大家族で暮らす場合には、家族が交替で看護することが出来たわけですが、当節は、老人だけの世帯が増え、このようなケースが増えているわけです。

家族の見舞いにしても、お金や食べものの差入れを老人たちが喜ぶと思っている人が多いようですが、決してそうではないことを、多くの人達に知ってほしいと思っております。私たちが身体にさわってあげるだけでも喜ぶ患者さんの気持ちを考えると、家族の見舞いが形式的なものが多くなっているように思えて、私たちも、寂しい気持ちになることがあります。

この職場には、私と同じように、就業援助センターが行った講習会を受講した後に就職した人が4～5人おりますが、一般募集で入った人たちと比べてやはり働き方に違いがあることを実感しております。おしめの交換、お風呂の入れ方、マッサージなど、病人にも、自分自身にも楽に出来る方法を教えていただいて本当に良かったと思っております。

私は今、与えられた仕事に真剣に取り組みつ毎日を充実して生

活をしておりますが、「病人介護と老人の世話講習会」を受講したことが契機となって、このような機会を与えられたことを心から感謝しております。

今後も、このような講習会を実施していただき、多くの人たちが受講することによって、その技術を、家族のため、社会のために生かすことが出来たらと願っているものです。

講習を受講して

(45歳 社会保険労務事務)

心筋梗塞という病気が、それまで平穩に過ごしてきた私たちの家庭を、唐突に襲いました。

いまだに忘れることができませんが、昭和56年2月7日に、夫は私と子供2人(長女18歳・短大、長男16歳・高校)を残して帰らぬ人となってしまったのです。想像だにしなかった事態に、動転するばかりでした。

しかし、親子3人が生活していくためには、悲嘆にくれてばかりもおられません。

それまでは、さして気にもかけなかったことでしたが、婦人雑誌等で、寡婦になってからの働く方の手記などが目に入り、資格をとって社会の第一線で働いておられるのことに、感銘いたしました。

そんなとき、テレビの県民チャンネル、県の広報紙の“県民の友”で、県婦人等就業援助センターが、各種の技術講習を行っていることを知りました。

幸運にも、それと前後して、かつて私が勤務していた会社の方から、K社で人を求めていることを聞きました。K社は、私の住所からバイクで5分ばかりのところにあります。ところが、仕事の内容

を聞きますと、社会保険労務事務が必要であることがわかりました。

早速、県婦人等就業援助センターが実施する社会保険労務事務の講習に申込みをしましたところ、あと僅かで定員外になるところでしたが、受講できることになりました。

受講してみますと、過去に会社に勤務した経験のある私でしたが、限られた日数、時間の中で、びっしりの講習内容は、雇用保険、厚生年金事務はある程度わかっている私でしたが、未知の分野の、労働基準法、労災保険法、雇用保険法、健康保険法等々がひしめき、想像していたより難かしく、理解するのに大変でした。

日を迫うごとに、講習にも慣れて、無事に講習を終えることができ、K社に採用されることになりました。

いまの会社では、社会保険労務事務は、社会保険労務士に委託していますが、それでも講習をうけたことにより、どんなときには、どのような手続きが必要で、どんなものが必要とわかりますので、助かっています。

講習は、実務を中心としたものでしたが、夫をなくして、今更ながら、これからの女性はいろんなことに積極的に挑戦しなければと思ひ、この講習をうけたことを機会に、将来国家試験をうけ、社会保険労務士の資格をとっても考えています。

最後に、無料でこのような講習をもたれたことに感謝するとともに、私の場合は幸いにも仕事に就くことができましたが、受講後、就業の場がもっと広く開かれていれば、と痛感している次第です。

なお、私は、この度の講習が厳しい実生活に打ち勝つための力強い原動力となったことを感謝し、一日一日頑張っています。

講習をうけての感想

(41歳 動力ミシン)

県立就業援助センター主催のファッションシューズ講習会を受講して良かったと思っています。関係者の方々ありがとうございました。

受講の動機は、手に職をつけたい、昇給が早い、丸上げができるようになれば家でも仕事ができる、という3つの魅力に引かれて受講しました。

受講初期はミシンを踏むだけでも楽しい。動力ミシンに慣れるように直線、曲線の練習、中期には地縫い、テープ乗せ、飾りステッチ、飾り付けなどいろいろ習っているうちに、内カーブを走るのにミシン落ちする。ミシンを止めながら一目一目行こうとするが、きちんと止まらず、ずるずるととんでもない方向に進む。ミシンは自分の思うように動いてくれないが、意志どおり動かす機械である。そうするうちに、受講生全員と先生を交えて感想を話し合うようになって、講習通いが楽しみになってきました。後期に入り、玉ぶち、三つ巻、頭付けの仕方等教わる内に、講習期間の終りの日が来ました。その日、縫製についての感想及び将来についていろいろ話し合っ
て修了式を終え、修了証書、講習生の名簿等をいただき、関係者の方々にお礼を言って、皆励まし合って別れました。

修了後、個人のミシン工場の方が技術を更に教えてもらえると思い、個人経営の所に就職しました。大変親切に教えてくださって喜んでおりましたが、給料について最初の約束と異なったため、勤務先を変えました。今度の会社はケミカル業では大きい方で、従業員が約50人ぐらいいるところです。今までより居心地が良く、給料も満足でき、ミシン工の方たちも親切な方ばかりで働き良いところでした。そこでは毎日の上達ぶりがわかるようにと言われて、仕事

の結果をノートに付けていきました。

少しづつですが数が増えていくし、押えの色々な使い方等教わり毎日楽しく勤めておりましたが、8月になると仕事が暇になる上ブーツが主になり、私の出来る仕事が少なくて休まされる日が多く、生活が出来なくなりました。また他の仕事場を探さなければならなくなりました。

知人を訪ね歩いているうち、ミシン工場を経営している人を思い出して行ってみました。そこで県のセンターでミシンの講習を受けたあと、仕事をして1年3か月を過ぎたこと、娘が中学3年生で受験生であること等話しましたら、「働いてみませんか?」と言われたので、9月中ごろから勤めに行きました。

その工場は紳士靴ばかりで、今までの婦人靴より仕事が楽でした。仕事の内容も難かしくなく、ミシン目も大きいので、仕事にも人間関係にも神経を使わず、居心地の良いところでした。仕事場も落ちついた様子でしたので、娘の高校受験にも、私ながらの力を入れていけましたので気持ちも落ちつきました。

そうするうちに正月が過ぎ、入試も済み、合格発表、卒業式、入学式と忙がしい毎日でした。大役を終えたと思うと、とたんに心の紐が切れたように体調がくずれ、ミシン針がぼやけて、眼中がしみるような痛さを感じたのです。眼科医に行きますと、「初期白内障」と診断されました。一時は、目の病気ですからミシンの仕事を止めようと思い、1カ月余り家にいましたが、友人の誘いがあり、私にはミシンをせねば生き甲斐が無いと思い、勤めに行く気になりました。体に無理をせぬように、9時から午後4時まで仕事をしています。現在の仕事場は、婦人靴、紳士靴両方ですが、今では大分腕も上がり数も縫えるようになり、時間的にも自由がきき、眼科医にも通わせていただきながら勤めています。これからも頑張っ一人前のミシ

ン工になり、自分の希望やケミカルシューズ講習関係者の方々に背かぬよう、また、娘、自分のためにも頑張ります。私がここまでこれたのも、センターはじめ関係者の皆々様の御協力がありましたからです。後日受講する人々も音を上げず、自分の思ったことはやり遂げていただきたく思います。

講習を終了して

(30歳 和文タイプ)

ふと目にした「県民だより」で県婦人就業援助センター実施の和文タイプの講習を知りました。夫を病気で失い、自力で生計を立てなければならぬ立場なので、技術を身につけられればと思い、応募いたしました。筆記と面接の試験を受け、幸い20名の中に選ばれ受講できることになりました。

私の場合には「寡婦等技術講習受講旅費」を受けることが出来ましたので、とても助かりました。内容も一般のタイプ学校よりも厳しいと聞かされていまして、それだけ身につくものも多いと思います、とにかく一生懸命でした。手のかかる子供も両親に預け一日中忙しい日々が続きました。

最初は、言われることを理解するのに時間がかかり、一日の講義が終わると、夢の中にまでタイプが出てくるほどでしたが、しだいに慣れるに従って、おもしろさもわかってきました。共に受講した違う世代の人たちとも友人になり、家庭や子供のことが自然と話題になり、勉強になることもたくさんありました。

講習を半分程終えたころから、しだいに仕事の話しが出るようになり、子供も小さいので、なるべく家にいられたらとは思いましたが、何の保障もない内職では不安でしたので、外へ出ることに決め

ました。

なるべくタイプを使う仕事をとほ思っていたのですが、住まいと同じ市内に、現在の事務の仕事がありましたので、勤務することになりました。事務所の中には、小さく簡単なタイプがありますので、慣れるに従つて打たせてもらえる可能性もあると思います。

受講中、学生時代に戻ったように学びながら、多くの人と接し、外の空気がとても新鮮に思えるようになりました。

全く初めてのものを、こうした機会に習得できたことは、幸せだったと思います。教材を全て終了した時、満足感とともに、物足りなさも感じました。果たして自分の力を100パーセント出せたのだろうか。これからの仕事で、これを生かしてゆけるだろうか。

今は、早く仕事を覚え、タイプの仕事に関しては、積極的になろうと思っています。小さいながら子供にも、そうした私の姿を見せたいと思います。そしてそこから、何かをつかみ取ってくればよいと思います。

長い間、外へ出て働くということから離れていましたので、今、不安はあります。けれど同時に、今まで自分で選り歩んで来た道の続きでもあり、そう思うと、私は前を向いてりんとしていなければならないと思います。私と、子供と、亡夫のために。

講習を受けて

(31歳 動力ミシン)

離婚し、2人の子供を引取った私にとって、生活の糧を得られるような何か手に職を持ちたいと考えていました。が、当座は考えもまともらず、すぐ現金を得るためにレストランで働き出しました。そのため下の子はまだ2歳未満でしたが、おむつを持って保育園へ

出しました。何分にも小さいのでかわいそうだとは思いましたが仕方ありませんでした。

勤めに出ても、園で熱を出したとか、上の子の授業参観とか何やかやで休まなければならないことが多く、1か月まるまる働けるなんて事はできませんでした。

たまたま近所にいる叔父から県婦人就業援助センターのミシン講習会の話を聞き早速申込みましたところ、幸い受講することができました。

受講するまでの私は、家庭用ミシンが少し踏める程度で、洋裁の技術などひとつもありませんでしたが、部分縫いから一つ一つ手をとって御指導いただきました。お陰で、初めて子供のブラウスができたときのうれしさは格別でした。自分の手で、ひとつの物を仕上げた喜びが仕事への意欲をかり立て、それから次々とスカート、子供のベストスーツ、自分のブラウスと縫いあげ、製品となる婦人物裏付きの素敵なデザインのジャンパーまで縫えるほどになりました。いや縫えるようにしていただきました。

受講期間は毎日が楽しくてあっというまに経ってしまいました。お弁当を持って通うなんて、何だか学生時代に戻ったような気がして、通うのに時間がかかることなど少しも苦になりませんでした。講習生のお仲間とも良いお友だちとしてお付き合いいただき、そのなかでミシンの技術に加えて人生の教訓をいただき、勇気づけられもし、充実した毎日でした。

講習を修了してからは、センターで紹介していただいた縫製工場へ行きました。作業の工程を覚え、どうにか一人でやれる自信がついたところでロックミシンを会社からお借りして、本縫ミシンは自分で購入し、2台使って仕事を始めました。

まだまだ手がのろく、人の半分もできませんが、9時ごろから子

供が帰る4時頃までは、一人ラジオを聞きながらミシンを踏んでいます。納期が間に合わないときは子供が帰ってから仕事もします。そんなときは子供も心得たもので、玩具とお菓子でおとなしく遊んでくれます。時にはじゃれつくこともあります。私の姿がそばにあれば安心なのでしょう。邪魔して困るということはありません。

現在はこういう状態ですが、子供たちも大きくなれば私の仕事に理解と協力をしてくれるようになると信じています。縫製一年生の私ですが、「手に職をつけた」という自信を持って子供と一緒に成長していきたいと希望に燃えています。

転職を節として

(44歳 経理事務)

人生には壁があり、それを機に大きく自分が変わらなければと何度か乗り越えて来ましたが、辛抱出来なかったことを悔んでいます。

最初には子供たちを保育園に預けて保険会社に勤務しました。家庭と職場に全エネルギーを注ぎ10年近く勤めましたが、職場の人間関係、また、家庭では主人との別居等が起こり、転職を考えたとき、感慨深いものがありました。別居中の主人と扶養にかかわる税金問題、高額所得者としての市営住宅立ち退き命令と、一度に困ることが起こってまいりました。子供の将来を考え、計画的に生活設計をやり直さねばと、あらゆる就職情報等で面接も重ねましたが、年齢と給与、職種の限定、通勤距離等でなかなか適した仕事が見当りませんでした。今の年齢にして何をしたいのか迷っていた矢先、「市政だより」で、県婦人職業相談センター主催の経理事務講習会の案内を拝見いたしました。

一度自分を確かめてみたい気持ちもあり、よい機会なので、早速申し

込みましたところ、定員ははるかにオーバーで面接で決定ということでしたが、母子家庭という御配慮をいただき受講生となることができました。

講習科目は、簿記、計算実務、電話マナーの実技、接遇等事務員必須で、また、安定所からは雇用援護制度も学び、婦人雇用の中に寡婦の就職促進についても配慮のあることを知りました。講師の先生方は経験とユーモアを交え、巧みに御指導をいただきました。計算実務では、スピードと考える時間を与えられ、久びさに頭の体操をしながら暑さを忘れての約1か月でした。お忙しい中を熱心に講義をせられる先生に、私も申し込んだ以上最後まで頑張らなくてはと懸命でした。講習中に全珠連の検定を受け、合格させていただいたのも大きな収穫の一つです。同じように技能を身につけ社会参加を望んでいらっしゃる皆さんがおられると思うと心強くもなり、お互いに働く意欲と家庭環境を話し合いながらがんばりました。

修了式で修了証書と検定合格書をいただいたときは、胸がときめいて童心にかえった気持ちでした。この職業相談センターと安定所は密接な連絡を取っておられ、修了証は私の実力以上にバックアップになり、㈱Kに早々に就職が決まりました。

講習は受けたものの実務の経験もなく不安な気持ちでしたが、温厚な社長と細やかに教えてくださる奥さんの側で3か月を経た現在、やっと仕事のやり方が少しずつわかってきました。慣れないということと、年齢的に記憶力もなくなり、度々同じことを尋ねながら会社の様子がわかり始めました。正社員として受け入れていただいた以上、仕事をやり遂げねばと張切っています。今年は長男が高校、長女は中学進学、そのためにも初心にかえって頑張る覚悟です。相談センターの皆さん、安定所の方々、そして㈱Kの社長をはじめ励ましてくださる周囲の方々に感謝の気持ちで毎日を送っております。

いつまでも、この幸せを

(42歳 病人介護)

想えば何年ぶりでしょうか、ここにこした母と子供たちと一緒に、紅白歌合戦を見ながら新しい年を迎えられたことなんて。この幸せを私は決して離しません。そして生きる喜びと幸せを下さった所長さんをはじめ親切に教えて下さった病院の先生方、また、短かい期間でしたが、一緒に勉強した皆様方に心から感謝致しております。

一昨年(1997)の8月、ある事情で主人と離婚した私は、18歳を頭に女2人、男1人、義母の5人家族の世帯主となったのですが、まず明日からの生活と子供たちの教育などを思うと不安で一杯でした。

貯えのない私はとにかく働らかねばなりません。そこで友人の紹介で、ある保険会社のセールスマンとして就職したのですが、知人の少ない私なので実績が上がらず、苦しい日々が続いておりました。何度か辞めようかと思っても失業する訳にもいかず、7か月が過ぎたころでしたか、姉に相談したところ、姉の言うには、テレビで県婦人就業援助センターが無料で病人介護の講習会の募集をしているとのこと、私はさっそくセンターに電話し飛びつく思いで受講の申込みをしました。

講習が始まったものの、難かしくて果して私についていけるかどうか心配でしたが、諸先生方のわかりやすい親切な御指導による看護に関するいろいろな話しは我が身にしみるとともに、よく理解できました。

また、日老人ホームに実習に行きましたときは、人間だれしも年が経てば何かの形で病人になるなど人生は様々ですが、命ある限りは患者自身も大儀だなあと思い、健康の有難さをしみじみと身をもって教えられました。

それから、私が最もうれしいことは、同期生の皆さんとお友だちになれたことです。お友だちというのは、こんなに楽しくありがたいものだったのか、初めて味わいました。私たちは約束しました。「いつまでも友だちでいましょうね」と。

なお、私だけ受講中は交通費とか手当までいただき本当に助かりました。私の知人に講習のことを話しましたところ、今度受けるのだと張り切っております。

これからの日本はどんどん老人が多くなることをテレビや新聞で知っていますが、この講習制度が大変役に立つことだと思いますので、もっとPRされ、たくさんの方が受けられることを望んでおります。りっぱな修了証書をいただいた私は、早速知人の紹介で98歳(男)の方の看護に当たりましたが、習ったことが早速役に立ち大変喜んでいただきました。

次の就職については、社会保険制度のある総合病院に就職したいと思っていましたところ、先日、センターよりのお世話で安定所を通して総合病院への紹介をいただき、希望の意志がかなえられ大変喜んでおります。

仕事の内容は寝たきり病人のお世話一切を致しておりますが、総合病院だけあって、患者さんも多いです。病状は類似していますが、それぞれの性格など個人差があります。しかし私は先輩の指導を得ながら常に平等にと心がけております。

また、職場には同期生が2人おられますので心強く思いますとともに、これからもお互いに励まし合って初心を忘れることなく、私自身が未熟者ですので精一ぱい努力し、いつも心を寛大に、明るく強く生きてゆきたいと思います。

今の仕事は私に適しておりますので少しの苦勞もなく、充実した幸せな毎日を過ごしております。ほんとうにありがとうございました。